

名 称	令和5年度 第1回 目黒区障害者自立支援協議会 本会議
日 時	令和5年7月 28 日(金)午後6時～午後8時
会 場	総合庁舎本館4階 政策会議室
会議次第	1 開会 2 委嘱 (1)委嘱・委員紹介 (2)会長・副会長の選任 3 目黒区障害者自立支援協議会の概要について 4 議題 (1)目黒区障害者自立支援協議会のイベントについて (2)目黒区障害者自立支援協議会運営等の見直しに向けた取組について 5 報告事項 (1)区からの報告 ・障害者計画の実績(令和4年度分)について ・障害者計画改定の基本的な方向についての「中間まとめ」(目黒区地域福祉審議会資料) ・令和4年度基幹相談支援センター 事業実績 ・令和4年度地域生活支援拠点 事業実績 ・精神障害者退院相談支援事業 事業実績 ・発達障害支援拠点ぽると 事業実績 (2)専門部会からの報告事項 6 その他 【今後の日程】 第1回運営会議 9月29日(金)午後6時～午後8時 第2回本会議 10月27日(金)午後6時～午後8時 第2回運営会議 2月16日(金)午後6時～午後8時 第3回本会議 日時未定(3月上旬を予定) 7 閉会
出席者	委員:岩崎委員(会長)、北本委員(副会長)、駒井委員、内田委員、松原委員、野村委員、池田委員、阿部委員、徳永委員、江見委員、渥美委員、岸井委員、白鳥委員、島添委員、重盛委員、村松委員、八崎委員、三木委員、長谷委員、斎藤委員(保健予防課長)、田中委員(障害施策推進課長)、岩谷委員(障害者支援課長)、大塚委員(子育て支援課長)、山内委員(教育支援課長) その他区職員:橋本(健康福祉部長)、田邊(健康福祉計画課長)、浅野(身体障害者相談係長)、石田(知的障害者相談係長)、田所(精神・難病係長)、長谷川(発達支援係長) 事務局:小野(計画推進係長)、渡邊(計画推進係)、横川・盛岡(基幹相談支援センター)
欠席者	田島委員、重盛委員、徳永委員、山内委員
配布資料	資料1 : 令和5年度目黒区障害者自立支援協議会委員名簿 資料2 : 令和5年度目黒区障害者自立支援協議会本会議席次表 資料3 : 目黒区障害者自立支援協議会設置要綱 資料4 : 目黒区障害者自立支援協議会の概要について 資料5-1 : 目黒区障害者自立支援協議会のイベントについて 資料5-2 : 目黒区障害者自立支援協議会のイベントに係る実施意向調査

	<p>資料6-1：目黒区障害者自立支援協議会の体制等の見直しに向けた検討について</p> <p>資料6-2：自立支援協議会の運営等の見直し関係資料(国資料)</p> <p>資料7-1：障害者計画の実績(令和4年度分)について</p> <p>資料7-2：障害者計画改定の基本的な方向についての「中間まとめ」(目黒区地域福祉審議会資料)</p> <p>資料7-3：令和4年度基幹相談支援センター 事業実績</p> <p>資料7-4：令和4年度地域生活支援拠点 事業実績</p> <p>資料7-5：精神障害者退院相談支援事業 事業実績</p> <p>資料7-6：発達障害支援拠点ばと 事業実績</p> <p>資料8：各専門部会からの報告事項</p>
会議内容	<p>1 開会</p> <p>事務局から委員が再編された旨の報告及び開会の挨拶を行った。</p> <p>健康福祉部長から挨拶と区長メッセージの代読を行った。</p> <p>事務局から配布資料の確認と運営上の注意について説明を行った。</p> <p>2 委嘱</p> <p>(1)委嘱・委員紹介</p> <p>資料1に沿って委員紹介を行った後、区の職員紹介、事務局の職員紹介を行った。</p> <p>(2)会長・副会長の選任</p> <p>会長は推薦により岩崎委員が再任された。</p> <p>副会長は推薦により北本委員が再任された。</p> <p>3 目黒区障害者自立支援協議会の概要について</p> <p>障害施策推進課長から資料4に沿って説明を行った。</p> <p>4 議題</p> <p>(1)目黒区障害者自立支援協議会のイベントについて</p> <p>事務局から資料5-1及び資料5-2に沿って説明を行った。</p> <p><b>委員</b></p> <p>準備は大変だが、事業所間のつながりが深まり結束が強くなることを感じる。コロナ禍以前の取組の形に戻していきたい。昨年の内容をバージョンアップさせ、来場者に関心を持ってもらえる仕掛けをイベント実行委員で考えていきたい。</p> <p><b>副会長</b></p> <p>対面だけでなく実施したイベント情報の発信について、SNSを活用することで来年の参加に繋がるのではないかと。その場だけではなく、どう拡散し、発信するか、皆様にもその点を意識していただきたい。</p> <p><b>委員</b></p> <p>イベントに参加した事業所側からの発信はおそらくほとんどされていないと思います。</p> <p><b>会長</b></p> <p>行政側から区報等で発信している状況ではないか。</p> <p><b>委員</b></p>

昨年はそのようにしていた。若年層に向け、ぜひ SNS 等での発信方法を取り入れていきたい。

**会長**

では、各専門部会からイベント実行委員を選出していただいて、進めてください。

(2)目黒区障害者自立支援協議会運営等の見直しに向けた取組について

事務局から資料 6-1及び6-2に沿って説明を行った。

**会長**

法改正やこれまでの歴史の中で協議会の位置づけも変わってきている。個別事例から地域課題を抽出することが自立支援協議会の大きな役割である。ただ、協議会の形骸化を感じており、再構築していく必要がある。

**委員**

長く協議会に関わってきた中で、高齢化・グループホーム対策部会では個別事例を共有し議論を重ねてきているが、どの部分をどのように協議会に挙げていくべきか、まとめきれない状況がある。個別事例の共有から具体的な対応方法を相談したり横のつながりをつくることはできてきたが、それを施策につなげていくというのが難しいと感じている。

**委員**

当初は、本会議で事例検討する機会があり学びの場になっていたが、これだけ規模の大きい場では深く議論することにはつながらない。施策につないでいくためには、もう少し積み重ねた議論が必要だが1回で終わることが残念だった。一般就労部会の方では深刻な課題はあまりないが、年に数回は各事業所から上手くいっているケースとそうでないケースを挙げる機会をつくっている。それが学びの場となり事業所間の連携につながっている。今回の見直しに期待したい。

**会長**

今回は区長メッセージもあったことから、この協議会の活動に期待されているということだと思っている。

**委員**

施設就労部会では、個別事例の検討というより事業所の運営に関わる議題が多く、協議会に課題として挙げるとするのは難しいと感じていた。一番気になっているのは人材の問題で、今後の障害分野がどうなっていくかが心配。人材を集められる工夫などの議論ができるとよいと思う。

**会長**

私が研究として行った事業所へのアンケートでは、新卒採用は少なく、中途採用が主になっている。また、仕事に定着しづらい状況で離職率も高い状況である。障害福祉人材の確保は厳しい状況である。

**委員**

子ども部会は、様々な分野の方が部会委員である。年間を通した活動では、事例検討の他にも様々な企画を行っているが、現在部会の中で課題として挙げられているのが「人材」のことである。また、制度の狭間にある方が活用できる社会資源についても課題として挙げられている。本会議で議論するための子ども部会としての数字的な根拠に基づく資料が用意できておらず提案ができないことも課題と思っている。今年度は、本会議に挙げて検討していただきたい内容についても整理していく方針である。

**委員**

話し合った内容がきちんと形になる会議体になるとよいのではないかな。各部会で話し合った内容が形になっていくと次につながるのではないかな。

**委員**

地域生活支援拠点としては、相談支援部会と高齢化・グループホーム対策部会に参加している。今回の見直しに関しては、福祉人材の育成でいうと、部会に参加する最初の一步が難しいのではないかな。参加してみると横のつながりもでき多くの学びがある。部会への参加が事業所職員の離職を防ぐことにもつながるのではないかな。

**委員**

目黒区社会福祉協議会としては、目黒区障害者自立支援協議会の立ち上げに関わっていた経緯がある。今現在の部会について、今のメンバーだけではなく色々な方が参加してよいということか。部会の活動メンバーはどのように集めているのか。

**委員**

部会は2種類あると思うが、一つは所属事業所と同様の種類のサービスを提供している事業所同士が声を掛け合い始まるもの。もう一つ典型的なのは高齢や防災に関するもの。どの部会にも関係しているため部員を集めるのが大変だと思われる。例えば防災であれば防災について困っている事業所があれば声をかけていくという形になる。区民が入っても構わないが現実に入っている人はいない。

**委員**

3月までは都庁教育委員会に在籍していた。本会議と専門部会の棲み分けは難しい。専門部会では、現場職員が集まり事例検討等ができるが、本会議では個別事例を扱うことは傍聴者もいることから配慮が必要。例えば先程の議論のようにデータとして蓄積し分析したものを議論するというような内容でないと本会議としては難しいのではないかな。これをやるには事務局側の運営がかなり大変と感じる。

各専門部会から挙がってくる報告事項についてどのような切り口で検討するか軸がないと、おそらく議論にはならず報告を聞いて終わりという形になると思う。それをどのように施策につなげていくか、具体的には来年度予算にどのような項目として挙げていくかについては、事務局のフィルターをかけないといけないだろうと思う。それから人材育成についてだが、育成について共通に学ぶべきプログラムがあるのか等の議論はこの本会議で行い、それを専門部会の方だったらどういう切り口で取組ができるかというような議論にしていけないと、おそらく本会議で全てはできないのではないかな。最後に、複雑な課題をどう分析しどう取り上げていくかというところは、一度事務局とのすり合わせが必要である。おそらく多岐に渡ってしまうので、目黒区のこの会で今年はこういうテーマでやりましょうという調整がまず必要なのだろうと感じた。

**会長**

その通りである。現実としては報告事項の共有に留まっている面がある。ただ、本会議に守秘義務が課されたことは画期的なことだった。そういった経緯の中で、本会議と部会の連結をどうするかという点について、部会の数の見直しをしたらどうかという議論もあったが、部会員の皆さんにもそれぞれの思いがありなかなか進んでいない。検討の優先順位をつけるということもままならないまま問題は多岐に渡りコロナ禍に入ったようなところがある。

**委員**

自立支援協議会に参加し3期目となる。専門部会のほうでは、事業所職員の方が中心となってやってくださっている中、自分は親の会の立場でもあり当事者委員として参加させていただいている。親や家族というのは、当事者と共に過ごす部分がかなり大きい。先日、子ども部会に参加したが人材育成含め様々なことが検討されている。部会で検討されている内容は子どもから大人まで必要な内容であること

から、1人の子どもが大人になるまでの流れがその部会で途切れないよう繋がっていけばいいと思う。そういう意味では、やはり本人や家族も部会に参加しお話を聞いたりそれを横につなげる役割などが持てると良いと思う。

**会長**

目黒区では、当事者や家族の参加が他と比べると少ない。

**委員**

失語症友の会と意思疎通支援部会に参加している。介護保険のサービスでは送迎が無料だが、失語症友の会に参加するための交通費は有料となるため、参加者が集まりづらい。しかし、介護保険のサービスの場では、失語症者はきちんと自分の考えがあるにも関わらず、結局発信能力がないため隅の方で黙って座って1日過ごす様子も聞いている。家族や親はそれで良いと思っていても、ご本人にとってはとても寂しい状態で過ごしている方がたくさんいらっしゃる状況を伺っている。なるべく早く、失語症友の会の方に出てきてもらいたいというのが私の希望。

**委員**

障害者団体懇話会に所属しております。福祉人材の育成について、若い方が入っても辞めてしまう。協議会に参加するメンバーは年配者が多い。若い方にもこの場に目を向けてほしいので誘っているが難しい。

**委員**

R5年度より相談支援部会の部会長を務めている。相談支援部会は、この3年間新型コロナウイルス感染症の影響もあり活動が予定通りできていない現状があり、事業所間の情報交換の機会も減りお互い抱えている課題なども見えづらくなっている。今、部会の再構築に向け目標を掲げて活動しているところである。去年は相談支援部会と区で話し合いが行われ、アンケートをまとめている。今年度中に議題を提案していきたいと考えている。アンケートの中で、相談支援専門員の相談先がないという声が挙がっている。責任が1人しかかけられてしまっているというような、私自身も驚くような内容もあり、やはりバックアップできるシステムがないと、いくら相談支援専門員が足りないからといって事業所や人を増やしたとしても、今抱えている問題というのは解決できないのではないかと感じている。それから、個別の支援にかかる検討について、介護保険法のほうでの地域ケア会議がイメージとしてはわかりやすいかと思う。事例を通しての地域課題というのが挙がってくることが多く、多様なものが出てきてなかなかその課題を施策につなげるのが難しいというのは、私も経験から感じているところである。ただ、そういった体制づくりや横の繋がりなどは、今すぐにもこういった事例を通して構築していくことはできるのではないかと感じている。

**会長**

本日は傍聴席にも相談支援の方々が勉強のため参加してくださっている方もいる。基幹センターにもバックアップできる体制をお願いしたい。

**委員**

今年度から相談支援部会の副部会長を務めている。私のほうからは二点あり、一点目は相談支援部会の立場として、相談支援専門員の抱える課題の大きさを今回のアンケートで知り、私の所属する事業所の中には介護事業所もあるが、介護支援専門員の立場と相談支援専門員の立場というのは、まだまだ非常に違うということを感じている。認知度も非常に低く、相談支援専門員の働き方は非常に苦しいところがある。個人のことでだけでなく社会の影響など、ケースについても独居や高齢化など困難ケースが非常に増えていることや、人材不足に関するところでいうと忙しいが故に人材育成ができないなど

様々な複雑な課題が絡み合っている。こういった課題もぜひ自立支援協議会の方で検討できればと思っており、何らかの形で提案できればと思っている。二点目に法人の理事長の立場として、職員は目の前の利用者に対しては非常に熱心で力を発揮するが、いざ部会など外部の会議に参加するととなると尻込みしてしまう、余裕がないというのが現実。ここで挙がっている若手や中堅職員というのも、ぜひ目黒区の地域課題の解決に向き合って入ってほしい。職員たちが自分から主体的に参加したいと思える会議にしていけたら良いと思っている。

#### 会長

協議会としての意見のまとめでは色々な内容が挙がっており、優先順位が我々としてはわからないような状況である。それは多様な課題が山積しているということだと思う。今回、より実のある協議会にしていくために、何に向かって皆で頑張っていくのか。ある程度一致した目標がないとばらばらになってしまう。事務局の方たちも、良い形にしていくにはどのようにすればいいのか試行錯誤してくださって、今日の提案になったのだと思っている。

#### 副会長

改めて資料6-2の図より、本人から市町村協議会へ参画の矢印が伸び、事例の報告等の矢印が事務局会議から更に地域課題の抽出となっている。事務局のフィルターや力が非常に問われる。これまでその部分が何となく本会議での議論でまとめていく流れだったが、そうではなく、やはり事務局が一番目黒区の福祉政策などに詳しい。そういった意味で、部会側からは色々な事例は出すが、優先順位などもここで決めるというより、事務局の方から逆に提案していただくぐらいでもよいのではないかと。世田谷は、地域ケア会議における政策につなげる最終のチェックは地域福祉審議会が担っている。事務局が現場の方から引き出した事例を基に、地域ケア会議に上げていただきそこから地域福祉審議会のメンバーが政策化しようという提案を持っていくので政策化ができていく。そのような意味では、専門部会側が地域課題の抽出まで全て行うというのは難しい。専門部会側からは多くの情報提供を事務局にしていいただき、その中から例えば国の政策の中で「今は医療的ケアのことが大切である」や、「このように課長会議で言われている」というところからすり合わせしていただき、これを地域課題の抽出として「今年度どうでしょうか」という形にするのが良いのではないかと。この様なたたき台があって初めて、「そちらはそう言うけれど、こちらが大切だ」といった現場の方も意見が言えるのではないかと。せっかく国の流れの図を出していただいたので、ある程度事務局の方からの意見を基に部会側が主体的に考えていくのがよいと思う。0 から地域課題を部会側が出すというのは少し難しいと感じた。

#### 会長

副会長が言われたのは、課題をまとめあげる作業は事務局にお願いするのが良いという趣旨の話であると認識した。

#### 委員

意思疎通支援部会から言わせていただきたいのは、部会員は日頃福祉サービスを受けていない方がいる。どこにも所属していないという点や一人暮らしや高齢者も多いため、災害時など、いざというときにどのように対応したらよいか心配している。

#### 会長

防災の話も重要である。人材育成の話等々どういう内容を協議会として中心的な課題として議論し施策につなげていくのか、皆さんの知恵をいただきながら行っていくべきかと思う。

## 5 報告事項

(1)区からの報告

- ・障害者計画の実績(令和4年度分)について
- ・障害者計画改定の基本的な方向についての「中間まとめ」(目黒区地域福祉審議会資料)

**事務局**

上記二点について資料7-1に沿って説明を行った。

中間まとめの今後についてだが、8月7日から区民意見を募集する予定。また7月31日に地域福祉審議会が主催する「地域福祉を考える集い」において、中間まとめの説明を行い、来場者から意見を募る予定である。このような取組を進め、計画の改定を来年の3月に向け進めていく。計画の検討状況については、本協議会でも随時共有させていただく。

- ・令和4年度基幹相談支援センター 事業実績
- ・令和4年度地域生活支援拠点 事業実績
- ・精神障害者退院相談支援事業 事業実績
- ・発達障害支援拠点ぽると 事業実績

上記四点については、各自で資料確認のこと。

(2)専門部会からの報告事項

**相談支援部会**

令和4年度に区との話し合いが行われ、意見作成のためアンケート調査を実施し、その取りまとめを行っており、その中から現時点での主な課題項目を記載している。人材不足、人材育成の支援システムづくり、それから事業所への支援というところで、相談支援事業を継続するには1件当たりの単価が低く相談支援専門員1人につき多くの利用者を抱えなければ事業所として継続ができないという課題がある。安定して事業を継続するには、数をできるだけこなさなければならず、利用者1人に対して割ける時間が少なくなり質の確保が難しい。質を高めたいと思うと逆に件数を抱えられないがそうすると事業継続ができない。相談支援部会としても、事業所支援のあり方について、社会資源の一つである基幹相談支援センターとともに、検討していきたいと考えている。

**子ども部会**

課題として共有したことについては、国の公的なサービスに繋がることができても、制度の狭間にいる方などに対しては、必要なサービスの情報が届きにくいということが一つあった。それから、インクルージョンを進めるための保育所等訪問支援の運営の難しさが報告され、福祉の事業所が特に学校に訪問に入る際、学校側や担任の先生の受入れについて関係構築や進行のしやすさに差があるという課題が指摘された。そして医療的ケア児連絡協議会はコロナ禍で中断していたが、再開がいつになるのか確認したいという声があった。そして2019年に子ども部会で医療的ケア児のご家庭へアンケートをとっている。部会内での振り返りも十分できていない中ではあるが、区の方として、アンケートについてどのようにフィードバックいただけるのか、今後説明いただけたらという意見が挙がっている。

**意思疎通支援部会**

今年度、各事業団体においてアンケートとったところ、今まで通りやりたいという声があり、当事者の高齢化や重度化等いろいろな問題が山積している。今後どのように進めていくべきかが一番大事。福祉サービスを受けていない多くの方をどのように救済するかを考えていきたい。

**一般就労部会**

唯一、障害福祉サービス外のサービスが入ってくる部会である。就労移行では、一般就労が比較的可能な方の受け入れのみでは事業所運営が成り立たないため、福祉的要素がかなり強い方も受け入れ始めている。こういった背景の中で、就労定着支援・就労移行支援の利用期間が終わっても安定した就労の定着につながらない方がとても増えている。こういった方は、その後地域の就労支援センターか、就業・生活支援センターと関わることになる。今、就労分野では就労すること自体が困難な方が就労希望者として多く存在している状況。その方たちをうまく就労につなげないと、逆に求人のニーズに応じられないというほど求人が多い。そのため、国も障害者雇用率の換算の条件の緩和や、B型就労と一般就労の併用を認めるようになってきた。非常に制度の変化に振り回されている部会であると感じている。

#### **施設就労部会**

7月の1回目の部会にて、前年度の工賃実績、作業活動の現状、各事業所のBCPの策定状況について情報共有を行った。防災部会でも話があると思うが、11月にBCPについて取り上げると出ている。施設就労部会に参加している防災部会員の方にも声をかけ、一緒に検討できたら良いと考えている。

#### **防災部会**

先日、大田区と意見交換を行い参考になった。事業所関係者が構成メンバーに多く事業所の防災対策の話題になる傾向がある。当事者にもメンバーに入ってもらい良い形の議論にしていきたい。本会議で協議したい事項としては、部会の活動資金が全くないという点について協議していただきたい。

#### **高齢化・グループホーム対策部会**

昨年度2月に3年ぶりに部会を再開し、今月第1回の部会を開催し、70歳過ぎて認知症を併発した高齢障害者ケースを検討した。家族支援も帰る家もなくグループホームが生活のすべてというケース。障害福祉サービスだけでは支援することが難しく、介護保険サービスと併用している。サービス提供が十分できないという状況の中で、たまたまお金を持っている方だったことから、自費でかなり高額なサービスを受けている状況がある。こういったケースに対し、今後は行政等も含め新しい取組を作っていくことや制度を変えていく必要がある。

### **6 その他**

#### **事務局**

9月29日(金)に会長、副会長、各専門部会長をメンバーとした運営会議を実施予定。本日の議論内容は事務局として検討の上運営会議にも挙げ第2回本会議に諮る。その他今後の予定については次第を確認のこと(10月27日)。

### **7 閉会**